

はじめに

医療は進歩発展して平均寿命（＝0 歳平均余命）では世界有数の長寿国のはずですが健康だと自覚出来ている人は減少している 2025 年です。

2019 年 12 月 8 日にデビューした〈新型コロナウイルス感染症〉。

その対策として登場した〈新型コロナウイルス感染症ワクチン〉は前代未聞の薬害になりつつあるようです。

救急車の現場到着時間は〈コロナ以前の 8.5 分から 10.3 分へ〉、年間要請件数も 730 万件超えと大変な事態になっています。

大切なのは〈科学的に 客観的に 冷静に対応〉する事です。

たかが風邪でも拗（こじ）らせると大病に繋がりますし、がんであっても対応がうまくいけば必ずしも予後不良なものではありません。

しかし、どれだけ注意しても全ての病気を避ける事は出来ません。

加齢が危険因子になる疾患も多いので、病気像を正しく知って、この小冊子が罹患した場合どれ位の費用がかかるのかを知る一助になる事を願っています。

2025 年睦月 監修者記す

もくじ

〈Ⅰ〉公的医療保険制度の仕組みと内容..... 3

・医療保険制度と自己負担.....	4
・自己負担の仕組み.....	5
・保険でカバーできる診療範囲.....	6
・重くのしかかる自己負担.....	7
・主な先進医療.....	8
・医療費が高額になった時.....	9
・通院にも使える限度額認定証.....	11
・高額療養費の盲点.....	12
・DPC(入院費包括払い制度).....	13
・公的医療保険が使えない診療行為.....	14
・病気やケガで仕事を休んだ時.....	15
・出産・死亡等には一定額の支給も.....	16
・年間医療費が10万円を超えた時.....	17
・入院時食事療養費.....	18

〈Ⅱ〉がんの再発率と5年生存率..... 19

・がんの再発率.....	20
・早期のがんは治る時代です.....	22
・肺がんの5年生存率.....	23
・胃がんの5年生存率.....	24
・大腸がんの5年生存率.....	25
・子宮頸がんの5年生存率.....	26
・子宮体がんの5年生存率.....	27
・乳がんの5年生存率.....	28
・肝がんの5年生存率.....	29
・膵臓がんの5年生存率.....	30
・食道がんの5年生存率.....	30

〈Ⅲ〉主な傷病別医療費..... 31

・肺がん.....	32
・胃がん.....	33
・大腸がん.....	34
・肝がん.....	35
・乳がん.....	36
・子宮がん.....	37
・膵臓がん.....	38
・心疾患.....	39
・脳血管疾患.....	40
・糖尿病(2型).....	41
・腎臓がん(通院治療).....	42
・妊娠中絶.....	43
・気になる差額ベッド料.....	44

がんの再発率

《いったん治っても・・・》

がんの再発

組織的に確認されたがんが治療によって臨床的に消失し、一定期間を経過した後に、同部位または近辺に再び同じ組織型のがんが発生すること。ただし、がんの再燃(ホルモン療法等で体に残っているものの休眠状態にあったがんが、再び活発に増殖に転じること)や多発がんは除外する。厳密には、治療によって根絶されず耐え抜いたがん細胞が時間を経て成長し、臨床的に発見された場合が再発である。

●肺がん

・再発率(非小細胞がん・根治手術可)

	(1年)	(3年)	(5年)
I A・B 期	1～2%	2～3%	5%
II A・B 期	5～8%	6～9%	10～12%
III A 期	10～15%	18～20%	25～28%



●胃がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期・II A 期	0～3%	2～9%	12%
II B 期	5%	12%	



●子宮頸がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	0～3%	3～5%	10%
II 期	3%	10%	15%

※かつては女性生殖器がんの中で最も多いが、近年は子宮体がんの増加傾向が高い。



●子宮体がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	3%	3%	5%
II 期	6%	6%	12%

※近年増加傾向で全子宮がんの50%以上を占める。手術療法が第一選択。化学療法も放射線療法も効果が薄い。





乳がん

《早期では 90% の 10 年生存率》

(K大学医学部附属病院)

Stage	10年生存率	T	N	M
I 期	90.2%	T1	N0	M0
II A期	82.7%	T0	N1	
		T1	N1	
		T2	N0	
II B期	68.9%	T2	N1	
		T3	N0	
III A期	37.9%	T0	N2	M0
		T1	N2	
		T2	N2	
		T3	N2	
		T4	N1	
III B期	37.5%	T4	N0~N2	
IV期	6.7%	T0~T4	N0~N3	M1

●全体では70~80%

T0：原発巣を認めず

T1：大きさ≦2センチ

T2：2.0<大きさ≦5.0センチ

T3：大きさ>5センチ

T4：大きさ問わず+胸壁固室、皮膚の浮腫・潰瘍

再発時

5年生存率 49.5%

10年生存率 22.7%

© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所

胃がん



概要

かつてのがんの第1位。ヘリコバクターピロリ菌感染による慢性胃炎→萎縮性胃炎・塩辛い食品・喫煙。最近ではEBウイルス感染もリスクと言われています。高分化型は高齢男性に多く肝転移しやすい。低分化型は若年女性に見られ腹膜播種。近年定期検診で早期発見されやすく死亡数は減少傾向。

症状

早期では無症状のことが多く、進行すると腹部膨満感や心窩部痛、体重減少、吐血、下血などが出現します。

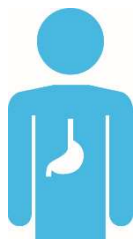
検査・治療

胃がんが疑われる場合には、内視鏡検査や内視鏡的生検などから確定診断を行い、上部消化管造影検査やCTやMRI、超音波検査などで進行度を診断します。治療はステージに応じ、内視鏡手術やリンパ節郭清を含む胃切除が選択され、腹腔鏡手術も多く行われています。切除不能例では化学療法や放射線療法、緩和手術などが行われます。

具体例

28歳女性。腹部違和感に加えて食欲不振体重減少で精査の結果進行胃がんIV型が見つかった。

入院:25日。



標準的な医療費（患者本人の自己負担分のみ）

計 39.0 万円

（これ以外にも、差額ベッド料、寝具料、その他雑費等も必要になることがあります。）

医療費明細

〈包括評価部分〉 586,400 円

〈出来高部分〉 627,300 円

医療費合計 1,213,700 円

患者負担額（3割） 364,110 円

食事標準負担額 26,460 円

患者負担額合計 390,570 円

事前に高額療養費の適用を申請している場合

28万2,777円（標準報酬月額83万円以上）

20万0,417円（標準報酬月額53～79万円）

11万6,027円（標準報酬月額28～50万円）

8万4,060円（標準報酬月額26万円以下）

なお、住民税非課税の人の自己負担限度額は月額3万5,400円。（別途食事費用負担額）